

学びのつながりを生かしながら主体的に学習に取り組む児童の育成 —音楽科における既習事項を活用した学習指導の工夫を通して—

特別研修員 音楽 木暮 秀行（小学校教諭）

児童の実態

- ・既習曲を提示すると、曲の特徴や表現の仕方を思い出して歌ったり、演奏したりすることができる。
- ・新たな題材の学習において、自ら既習内容を生かして曲の特徴をつかもうとしたり、表現を工夫しようとしたりする児童は多くない。

教師の願い

- ・今までの学習を生かしながら、曲の特徴を捉え、音楽のよさを見だしてほしい。
- ・それぞれの題材での学びをつなげていくことで、よりよい音楽表現をするための思いや意図をもち、音楽のよさを見だしてほしい。

実践事例：音楽科・小6『曲想の変化を楽しもう』

【教材名「思い出のメロディー」 深田じゅんこ 作詞／橋本祥路 作曲 「ハンガリー舞曲 第5番」 ブ람ス 作曲／シュメリング 編曲】

【手立て1】振り返った学びを題材の学びに生かし、思考を深めるための導入

つかむ①（題材の導入）

- ・題材の系統性を意識し、過年度と今の学びをつなぐ。

5年生『曲想の変化を感じ取ろう』

学びを振り返る活動を設定

題材の系統性を意識

6年生『曲想の変化を楽しもう』

5年生では、「キリマンジャロ」と「夢の世界を」で曲想を感じ取る学習をしました

音の上がり下がりやリズム、速さや強さ、歌詞の内容などから生まれる曲の感じのことを曲想というんだってね

「思い出のメロディー」はどのような曲想かな？その曲想を歌で伝えるためにはどのような工夫ができるだろう？



【手立て2】学びを蓄積し、交流や次の活動へ生かすためのICT活用

まとめる

- ・本時の学びを振り返り、これからの学びにつなぐ。

これからも曲想を生かして歌っていきいたい！

声の大きさや響き、歌う仕草などを工夫すると曲想を表現できたよ

何度も録画と話し合いを繰り返して思い通りの表現を工夫することができたね

曲想を意識して聴いたおかげで友達の歌い方の工夫にも気付くことができたよ

そして次の学びへ！



思い出のメロディー 振り返り 2

- ① 曲想を感じることができた
- ② 曲想を歌で表現するための工夫を考えられた

その他できたことや気づいたことなど

・声の響きや大きさなどを工夫することによって、曲想を伝えることができた。また、自分たちの歌を録画すると、気づいた後に客観的に考えることができた。わかった。

演奏や学びの振り返りをタブレット端末に記録し、次の学びへ活用

学びのつながり

つかむ②（授業の導入）

- ・前時と本時の学びをつなぎ、活動の見通しをもつ。

曲想とは、旋律の上がり下がりやリズムの速さ強弱によって生まれる曲の感じのこと。+歌詞の内容			
めあて① ア、イ、ウの曲想のちがいを感じながら歌おう。			
ア	イ	ウ	
音の高さの上がり下がりが多い。	音が安定して、音の大きさが変わる。	最初からずっと同じリズムで、音の大きさが変わる。	
歌い方から感じること	「よく聞かせよう」という気持ちで、歌い方から感じること。	「よく聞かせよう」という気持ちで、歌い方から感じること。	
曲想	音の高さの上がり下がりが多い。風がやさしく吹いている海を表現しているイメージ。	音が安定して、音の大きさが変わる。大切な思い出を大切に伝えるようにしている。	

前年度の学びや前時の学びから、本時のめあてを導き出すためのワークシートを活用

風がやさしく吹いている海を表現するために、音の上がり下がりに応じた強弱をつけてみるのはいかがでしょうか？



追求する

- ・学びの振り返りを表現活動につなぎ、録画や話し合いを基に試行錯誤する。

楽譜から気づいたこと

・最初、もうフォルテがついていて、強さがある。フォルテがある。上りのイは、きらめくよ。少しくなってきた。最後、弱くなってきた。下は、最後、弱くなってきた。クレッシェンドとかデカク、クレッシェンドがある。

・最初、フォルテの強さがあって、強さがある。フォルテがある。上りのイは、きらめくよ。少しくなってきた。最後、弱くなってきた。下は、最後、弱くなってきた。クレッシェンドとかデカク、クレッシェンドがある。

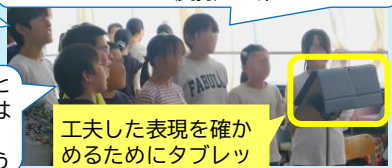
全員の感じ取った曲想を学習支援ソフトを活用して集約・共有し、表現の工夫に生かす（前時）

感じ取った曲想が相手に伝わる表現になっているかな？

強弱だけでなく、動きを付けて歌うのはいかがでしょうか？もう一度撮って確かめよう

自分たちの思いをもっと分かりやすく伝えるにはどんな工夫ができるか、いろんな歌い方を試そう

工夫した表現を確かめるためにタブレット端末で動画を撮影



目指す児童像：既習の学習内容を活用しながら、主体的に学びを深めようとする児童

成果

- 既習事項を振り返りながら学習を進めていったことは、児童が題材の学習に見通しをもち、必要感をもちながら主体的に活動に取り組むために有効であった。
- 学習内容や授業の振り返り、演奏の様子等をワークシートやタブレット端末に記録することで、自らの学びを客観的に捉え、深まっていく様子が見られた。また、表現活動での学びを鑑賞に生かしている姿が見られた。

課題

- より実感を伴った学びにするために、授業の始めと終わりの表現の変容を聴き比べる時間を確保する。そのために導入時での既習曲や既習事項の振り返り方の更なる工夫と活動内容の精選が必要である。
- 学びの蓄積は、思考や表現を広げることにつながるため、継続しながらより有効な方法を検討していきたい。